

主催競技会における暑熱対策について（2026 年度 7 月より）

2026 年 7 月 9 日

一般財団法人 愛知陸上競技協会

近年の気候変動に伴い、猛暑による競技者および関係者への健康影響がより深刻化しています。本協会では競技会の開催において、競技者・審判・関係者の安全と健康を守ることを最優先とし「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」（公益財団法人日本スポーツ協会）に基づいた安全な運営に取り組み、同ガイドブック内「熱中症予防運動指針」に従って、「暑さ指数（WBGT：湿球黒球温度）」に応じた対応方針を定め、競技の実施および進行（中止・中断・延期・時間変更・運営変更など）について適切に判断します。

- 1 7 月～8 月は WBGT の値が 31 以上になる可能性が高いため、できるだけ大会の開催を避ける。
- 2 7 月～8 月に大会を実施するときは、日中の暑い時間をさける競技日程を編成する。早朝、夕方以降などを中心に競技時間を編成する。
- 3 トラック種目はタイムレース、フィールド種目は試技数を減らすなど、競技時間の短縮をはかる。
- 4 シャワー・散水・ミスト扇風機や氷などを活用した暑熱対策を実施する。
- 5 WBGT31 以上になった時には、競技の中断・打ち切り・延期・競技日程や運用方法の変更などを検討する。競技を継続する場合は、競技者・審判・補助員の安全を優先した大会運営を行う。
- 6 1～5 の項目はシーズン中であっても必要に応じて本協会内で検討し、改善を行う。